

平成 30 年 2 月 7 日

報道機関 各位

富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展

「GEIBUN 9 -CUE-」の開催

この度、下記日程で、富山大学芸術文化学部卒業生・修了生 117 名による卒業修了研究制作展「GEIBUN 9 -CUE-」を開催します。

会期中は、

- ・「オープニングセレモニー・Geibun Prize2018 表彰式・内覧会」:2月9日(金)に開催
- ・「プライズ・トーク」:2月11日(祝)に Geibun Prize2018 受賞者らが武山学部長とともにギャラリートークを行います。
- ・「公開プレゼンテーション」:デザイン工芸・デザイン情報コースの学生によるプレゼンテーション
- ・「ゲストトーク・作品講評会等」:学生たちが招聘した各界のトップランナーによる講演会等・作品の講評会等を実施します。

つきましては、取材・報道についてよろしくお取り計らい願います。

記

富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科

卒業・修了研究制作展「GEIBUN 9 -CUE-」

開会式:平成 30 年 2 月 9 日(金)午後 3 時 00 分から午後 5 時 00 分(開場:午後 2 時 30 分)

高岡市美術館地階ビートークホール

会期:平成 30 年 2 月 10 日(土)~2 月 25 日(日)[14 日間,2 月 13 日(火),19 日(月)休館]

会場:高岡市美術館

観覧料・イベント聴講: 無料

主催:富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展実行委員会

(富山大学芸術文化学部、[公財]高岡市民文化振興事業団・高岡市美術館)

共催:高岡市、高岡市教育委員会

後援:富山県、富山県教育委員会、高岡商工会議所、高岡市美術館友の会

協賛:高岡短期大学・富山大学芸術文化学部同窓会「創己会」

※展覧会、講演会等、その他イベントの概要は別紙参照

※「GEIBUN 9」についての情報は、随時 Facebook 等にて発信しています。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学

芸術文化学部准教授

伊東

芸術文化学部総務課

総務・研究協力チーム (森田)

TEL. 0766-25-9139

GEIBUN9

富山大学 芸術文化学部 大学院芸術文化学 研究科

卒業・修了研究制作展



高岡市美術館

9:30~17:00 (入館は16:30まで)

2018年 2/10 [土] - 2/25 [日]
休館日: 2/13 [火]・2/19 [月] 観覧無料

GEIBUN9

富山大学 芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展

高岡市美術館

9:30～17:00 (入館は16:30まで)

2018年 2/10 [土]-2/25 [日]
休館日: 2/13 [火]・2/19 [月] 観覧無料

オープニングセレモニー

2/9 [金] 15:00～
会場: 高岡市美術館ビートホール
セレモニーとあわせ、GEIBUN9の見どころ紹介を行います。
また、セレモニー終了後、内覧会がございます。

公開プレゼンテーション

■ 豊かさのかたち
2/15 [木]-2/16 [金] 9:45～16:30 (終了時間は早まる可能性があります)
会場: 高岡市美術館企画展示室、市民ギャラリー、ビートホール
デザイン工芸コースの学生による公開プレゼンテーションを行います。

■ 私たちが創り出した「こたえ」
2/15 [木] 13:00～16:30
会場: 高岡市美術館企画展示室、市民ギャラリー
デザイン情報コースの学生による公開プレゼンテーションを行います。

院生展

2/17 [土]-2/25 [日] 11:00～19:00
会場: 芸文ギャラリー 休館日: 2/21 [水]
(高岡市御旅屋町 90-1KM ビル 1F・Tel 0766-25-6078)
修士課程一年生による成果展示を行います。

2010年、全国でも類を見ない美術館の企画展としてスタートした
富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展。
2018年に9回目を迎える本展は、「CUE～きっかけ、手がかかり～」をテーマに
芸術文化学部卒業生 118名、芸術文化学研究科修了生 10名による
総作品数 128点の油画、日本画、立体、メディア・アート
インタラクティブ・アート、アニメーション、金属工芸、漆工芸
木工芸、ジュエリー、ヴィジュアル・デザイン、プロダクト・デザイン
クラフト・デザイン、建築意匠、都市計画、まちづくり、人間工学、建築環境
材料工学、建築史、美術史、美学、文化論などの卒業・修了研究制作を一堂に展示。
多様性の中のきらめきを表現するインスタレーションが繰り広げられます。

ゲストトーク

会場: 高岡市美術館ビートホール
(聴講無料、事前申込み不要、80席)

各界の著名なゲストをお迎えし、
バラエティに富んだ
トーク・ミーティングを開催します。

2/10 [土] 「描く力」

13:00～
山口 晃 画家
1969年東京都生まれ。群馬県桐生市に育つ。東京芸術
大学大学院美術研究科絵画専攻(油画) 修士課程修了。
大和絵のようなタッチで、時空の混在、緻密に描き込ま
れた街の鳥瞰図や合戦図、観客を飽きさせないユーモア
とシニカルさを織り交ぜた作風に代表される。第4回岡
本太郎記念現代芸術大賞優秀賞、自著『ヘンな日本美術
史』(祥伝社)にて第12回小林秀雄賞を受賞。桐生市
芸術大使。

2/17 [土] 「いま、建築でできること」

15:00～
青木 淳 建築家
(13:30より学生作品の講評会)
1956年横浜生まれ。1982年東京大学大学院修了。
1983-90年磯崎新アトリエに勤務後、1991年青木淳建
築計画事務所設立。個人住宅、公共建築から商業建築
まで多方面で活躍。2004年度芸術選奨文部科学大臣
新人賞受賞。代表作に、「馬見原橋」、「S」、「潟博物館」、
「ルイ・ヴィトン表参道」、「青森県立美術館」、「杉並区
大宮前体育館」等。

2/18 [日] 「伝統工芸と地域づくり -デザインの新なる可能性について」

13:30～
城谷 耕生 デザイナー
1968年長崎県生まれ。1991年イタリアに渡りミラノ
の建築・デザイン事務所勤務。2002年帰国し、雲仙
市に STUDIO SHIROTANI を開設。作品は東京国立近
代美術館、長崎県美術館などに収蔵されている。
2013年、過疎地区の調査研究をきっかけに長崎県雲
仙市に刈水庵(ショップ・喫茶)をオープンし、この
地区のデザインを通じた地域作りを続けている。

2/24 [土] 「美術館の仕事-島敦彦の場合」

13:30～
島 敦彦 金沢21世紀美術館 館長
1956年富山県生まれ。早稲田大学理工学部金属工
学科卒業。富山県立近代美術館建設準備室勤務を
経て同館学芸員となる。その後国立国際美術館や愛知
県美術館に勤務。担当した主な展覧会には「瀧口修
造とその周辺」、「富山直哉写真展」、「絵画の庭-ゼ
ロ年代日本の地平から」、「あなたの肖像-工藤哲巳
回顧展」などがある。2017年4月より金沢21世紀
美術館の館長に就任。

2/25 [日] 「個性の発見とアニメーション」

13:30～
田中 達之 アニメーション監督
1965年福岡県生まれ。アニメーション監督、イラス
トレーターとして活動している。映画「AKIRA」の原
画をはじめ、映画「Genius Party Beyond」の「陶人キッ
ト」では監督を務める。またゲーム「リンダキューブ」
のキャラクターデザインや映画「GANTZ」の武器デ
ザインを手掛けるなど、その活躍は多岐にわたる。

主催 富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展実行委員会
(富山大学芸術文化学部、公益財団法人高岡市民文化振興事業団・高岡市美術館)
共催 高岡市、高岡市教育委員会
後援 富山県、富山県教育委員会、高岡商工会議所、高岡市美術協会の会
協賛 高岡短期大学・富山大学芸術文化学部同窓会「創己会」

問合せ 富山大学芸術文化学部総務課 〒933-8588 富山県高岡市二上町180番地
TEL 0766-25-9139 FAX 0766-25-9104
E-mail info@tad.u-toyama.ac.jp HP http://www.tad.u-toyama.ac.jp/

詳細はこちらまで [富山大学芸術文化学部](#)



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



公益財団法人 高岡市民文化振興事業団 高岡市美術館

〒933-0056 富山県高岡市中川1丁目1番30号
TEL 0766-20-1177 http://www.e-tam.info/

- 新高岡駅より
富山駅行バス(高岡駅経由)「中川」下車、徒歩2分
- 高岡駅より
徒歩: 約20分(北東約2km)
電車: JR氷見線「越中中川駅」下車、徒歩2分
バス: 職業安定所前行バス「工芸 高校前」下車、徒歩1分

○ 駐車場: 地下駐車場(9:00～18:00) 2時間まで無料
高岡文化の森駐車場(屋外) 無料

展覧会プレス・リリース

GEIBUN 9 富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化科学研究科 卒業・修了研究制作展

■**開催趣旨** 富山大学芸術文化学部は平成17年の学部創設以来、今年で12年目を迎え、2010年に全国でも類を見ない公立美術館の企画展として始まった卒業研究制作展も9回目を数えることになりました。芸術文化学部は、芸術文化学科1学科のうちに造形芸術、デザイン工芸、デザイン情報、造形建築科学、文化マネジメントの5つのコースを擁し、コースの垣根を越えた融合教育を特色とした、さまざまな分野の研究、制作を行っています。本展覧会では、芸術文化学部卒業生107名、芸術文化科学研究科修了生10名による総作品数117点の油画、日本画、立体、インタラクティブ・アート、アニメーション、金属工芸、漆工芸、木工芸、クラフト・デザイン、ジュエリー、ヴィジュアル・デザイン、プロダクト・デザイン、コミュニケーション・デザイン、建築意匠、建築保存・再生、環境工学、美術史、美学、文化研究、景観研究、まちづくりなどの卒業・修了研究制作を一堂に展示し、その成果を示すものです。

■**概要** 展覧会のテーマは' CUE一きっかけ、手がかり'。学生たちが一瞬のきらめきのような手がかりをつかもうと奮闘し、答えを探してたどり着いた先をさまざまに指し示すような展覧会となります。富山大学芸術文化学部および芸術文化科学研究科の卒業・修了研究制作を一堂に展示し、新たな学部のコンセプト『「芸術」だけでも、「文化」だけでもない、「芸術文化」という概念』を具現化するために、従来のジャンルの枠を取り払い、ジャンルの異なるものの混成の中に融合的な思考が感じられるように、展覧会全体を多様性の中のきらめきを表現するインスタレーションとして構成します。

(別紙 展覧会の見どころ参照)

■**展覧会場** 高岡市美術館 第1、第2、第3展示室および地階市民ギャラリー、ビトークホール

■**展覧会期** 2018年2月10日(土)～2月25日(日) オープニングは2月9日(金)

■**開館時間** 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■**休館日** 2月13日(火)、2月19日(月)

■**観覧料** 無料

■**主催** 富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展実行委員会(富山大学芸術文化学部、公益財団法人高岡市民文化振興財団・高岡市美術館)

■**共催** 高岡市、高岡市教育委員会

■**後援** 富山県、富山県教育委員会、高岡商工会議所、高岡市美術館友の会

■**協賛** 創己会

■**関連イベント**

○オープニング・セレモニー

2月9日(金)午後3時 高岡市美術館ビトークホール Geibun Prize 2018授賞式(本展に出展された作品及び論文の中から優れたものに与えられます。) GEIBUN9の見どころ紹介と内覧会

○プライズ・トーク 2月11日(日)午後1時30分～午後3時(高岡市美術館展示室)

Geibun Prize 2018 受賞作について、武山良三学部長と受賞学生によるギャラリー・トーク

○公開プレゼンテーション

豊かさのかたち 2月15日（木）16日（金）午前10時~午後4時30分（高岡市美術館展示室、ビトークホール） デザイン工芸コースの学生による公開プレゼンテーション

私たちが創り出した「こたえ」2月15日（木）午後1時~午後4時30分（高岡市美術館展示室）デザイン情報コースの学生による公開プレゼンテーション

○ゲスト講師による講評会 美術、工芸、デザイン、建築、文化マネジメント、それぞれの分野を代表する講師を招聘し、5回を予定（会期中の土、日、祝日の午後開催）。ゲストによって選ばれた「ゲスト賞」作品については、会期中、掲示します。

第一回 山口晃（画家）「描く力」2月10日（土）午後1時から

第二回 青木淳（建築家）「いま、建築でできること」2月17日（土）午後3時から（午後1時30分より学生作品の講評会）

第三回 城谷耕生（デザイナー）「ものづくりの未来」2月18日（日）午後1時30分から

第四回 島敦彦（金沢21世紀美術館館長）2月24日（土）午後1時30分から

第五回 田中達之（アニメーション監督）2月25日（日）午後1時30分から

○院生展 2月17日（土）~2月25日（日）午前11時から午後7時まで 芸文ギャラリー（高岡市御旅屋町90-1 KMビル1F tel:0766-25-6078 休館日2月21日（水））修士課程一年生による成果展示

■関連書籍 『GEIBUN9 富山大学芸術文化学部 卒業研究制作 芸術文化学研究科 修了研究・制作集』A4版 表紙回りを含み全180頁（カラー96頁+モノクロ82頁）700部（予定）
富山大学出版会 2018年3月20日（刊行予定） 3,564円

問い合わせ先 富山大学芸術文化学部 伊東 森田（研究協力担当）

TEL:0766-25-9139 e-mail :info@tad.u-toyama.ac.jp

【展示の見どころ紹介】

GEIBUN 9 の展示の構成について 会場となる4つの展示室には、芸術文化学部および大学院芸術文化研究科を今年度卒業・修了する学生の作品が117点あります。その研究分野は、実技と理論合わせて約 40 にのぼります。今回の展示では、特ににわたしたちの学部の持つ多様性を体感していただくことを目指しました。これまでの4年間、さらにまた2年間の集大成としての作品・論文の数々について、展示室ごとに見どころを説明いたします。

まず、入ってすぐのアートホールでは、伝統的な技法の漆工芸の作品が皆様をお出迎えします。

次に、展示室1/4には、平面作品と映像作品が壁面をぐるりと取り囲むなかに、様々な立体作品やインスタレーション、漆、金属などの工芸作品と、美学・美術史の論文が配されています。それらの作品は、様々な素材・技法を用いて、伝統的な技法への挑戦と新しい造形の中で、自らの内面や記憶や経験、自然を表現しています。一方論文では、新旧の芸術について、これまでの研究の上に独自の理論を展開するフレッシュな力を感じることができでしょう。

続いて展示室2/4には、建築デザインを中心に木彫とコミュニケーション・デザインの作品を集めました。中央の大きなテーブルに集められた建築模型が圧巻ですが、その傍らに大きな木彫作品が配され、壁面をパネルが取り囲んでいます。それらの建築作品では、高岡市、砺波市、輪島市、糸魚川市、長野県信濃町、ジャカルタなど、国内外の様々な地域のための建築意匠と建築保存・再生、都市計画がテーマとなっています。また建築意匠論や環境工学に関する論文、さらには地域のイベントやライフスタイルの提案もあります。いずれの作品・論文にも、地域の歴史・風土・文化を継承しながら、人々のより良い暮らしのための空間を創造する「伝統と革新」があります。

さらに展示室3/4は、工芸の中でも日々の暮らしに息づくクラフト作品です。漆の酒器やケーキプレート、アクセサリ、金属の合子があります。ソファなどの家具、さらに紡ぎ車や伝統的な水引による家具の提案、アルゴリズムミクな格子の作品など、多様なアプローチがなされています。また論文では、富山県の風景に関する研究もあります。いずれも、暮らしの中にある美を発見し、また自らの発想力や造形・デザインで、四季の移ろいを感じながら生活をより美しいものにしようとする試みです。

最後の地階展示室4/4には、様々なデザイン作品を集めました。清酒のパッケージ、お弁当箱などのプロダクト・デザインや、現在流行中の「インスタ映え」する食事に関するSNSのデザインなど、各種の楽しいデザインの提案や、文字や色の見え方により新しい知覚体験を創出するビジュアル・デザインの試みがあります。また暗室にはアニメーションや、インタラクティブ作品のような映像作品やジュエリー作品を配置しました。また、文化研究の論文もあります。これらには、既存の芸術やデザインの枠をはみ出た、独創的なアイデアが盛りだくさんです。

なお、展示室1/4と2/4をつなぐ通路には自画像と建築やデザインの作品が、展示室2/4と3/4をつなぐアーチ型の通路には、まちづくり、景観研究などの論文が展示されています。

作品や論文についてより深く理解していただくように QR コードによる作品説明も今回初めて導入しました。キャプションにある QR コードに携帯電話をかざしていただければと思います。